

位置

や云めり、潮の満干のほどは、宇治の甲瀬よりも猶落激りためり、さても穴門豊浦の都と申し侍ること、今は今の赤間の關と門司の關とのあはひは、山ひとつなる、其中に、わづかに潮のみちひの路ばかり、穴のやうにて侍るに、其岸の東西に、人家まげかりけり、穴戸とはさて云なりけり、其を皇后の軍の御舟通り難かりけるに、御舟よそひて後、一夜のほどに、此穴戸の山引分れて、今のはやともの渡りになりぬ、此山さながら西の海中によりて、島となれり、此島の向ひは柳の浦とて、昔里内裏のたちたりける所なるべしと云り、此穴門の名の説、國人の古く語傳へたるを聞て記せるなるべし、但其岸の東西に、人家まげかりけり、穴戸とはさて云なりけり、云は、古言に、海穴との如くなる、海戸と云意なる物をや、(中略)なほ内山眞龍が考づくかに、五六町ばかり、離れたり、さ崎と此段浦と早瀬と相對ひたる、兩方の山の岸崩れ、潮通ふ道ありて、船上代には、此處長門と豊前とつゞきたる、岩山にて、其下に、洞ありて、東西通り、潮通ふ道ありて、船も往來ひつらむ、故に穴戸とは云なるべし、仲哀天皇紀に、洞海とあるも、此なり、(中略)と云り、宣長按に、此考貞世の記せる趣と、大かた似たり、洞海と云は、久岐は久具理にて、山下の洞をくゞりて、舟按に、往來し故の名なるべし、  
○下略

〔地勢提要 乾〕各國經緯度 附里程

長門萩濱崎町 極高三十四度二十五分、經度西四度二十分、從東都同上(東海道西國街) 二百七十二里  
一十町一十五間、

同赤間關南部町 極高三十三度五十七分半、經西四度四十七分、從東都同上 二百八十里八町〇八間半、

〔日本經緯度實測〕北極出地

長門 赤間關 三四度五七分三〇秒 萩 三四度二五分〇〇秒

向津具村 三四度二四分〇〇秒 奈古村 三四度三〇分〇〇秒略

東西里差

山城 京 〇度〇〇分〇〇秒略 中 長門 萩 西四度一八分〇〇秒